

## お知らせ

## 同時資料提供先

- ・合同庁舎記者クラブ
- ・広島県政記者クラブ
- ・中国地方建設記者クラブ

平成24年度建設副産物実態調査<sup>注1)</sup>結果について（中国地方版）

平成24年度に中国地方の建設工事から排出された建設副産物を対象として、排出量、再資源化等の状況について調査を行いました。

今回、中国地方における調査結果がまとまりましたので公表いたします。なお、全国集計結果については、国土交通省総合政策局にて同時公表いたします。

## 【調査結果のポイント】

- ①平成24年度の建設廃棄物の排出量は483万トンとなり、前回調査（平成20年度）より18.7%増加していますが、最終処分量は18万トンと前回調査より30.8%減少しています。
- ②建設廃棄物の再資源化・縮減率は、96.2%と前回調査（平成20年度）より2.7%増加しています。建設廃棄物の各品目毎の再資源化率等の達成状況は、全国計画である「建設リサイクル推進計画2008」の平成24年度目標値は全て達成しました。中国地方で独自に設定した「中国地方建設リサイクル推進計画2009」の平成24年度目標値に対しては、建設汚泥について未達成となりました。
- ③建設発生土の搬出量は、1,337万m<sup>3</sup>となり、前回調査（平成20年度）より20.6%増加しています。利用土砂の建設発生土利用率は、91.9%と前回調査より7.7%増加しています。

注1) 建設副産物実態調査：建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するための統計調査です。調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立てています。建設副産物は、建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物（アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物）及び建設発生土（建設工事の際に搬出される土砂）の総称。

## 【問合わせ先】

中国地方建設副産物対策連絡委員会

事務局：国土交通省 中国地方整備局

電話番号（082）221-9231（代表）

企画部 技術管理課課長

ほりえ ゆたか  
堀江 豊（内線3311）

（担当） 課長補佐

あかほし つよし  
赤星 剛（内線3315）

（広報担当窓口） 広報広聴対策官

さかもと しげゆき  
坂本 繁幸（内線2117）

企画部 環境調整官

たかはし としあき  
高橋 利彰（内線3114）

## 平成24年度建設副産物実態調査結果（中国地方）について

### 調査結果の概要

#### 1. 排出量及び再資源化率等の動向

##### (1) 建設廃棄物

平成24年度の建設廃棄物の排出量は、483万トンとなり、前回調査（平成20年度）より18.7%増加していますが、最終処分量は18万トンと前回調査（平成20年度）より30.8%減少しています。

平成24年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率<sup>注2)</sup>は、96.2%と前回調査（平成20年度）より2.7%増加しています。各品目毎にみても、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材<sup>注3)</sup>、建設汚泥の主要品目すべての再資源化率、再資源化・縮減率が増加しています。

##### (2) 建設発生土

平成24年度の建設発生土の搬出量は、1,337万<sup>m</sup>となり、前回調査（平成20年度）と比較して20.8%増となりました。

平成24年度の利用土砂の建設発生土利用率<sup>注4)</sup>は91.9%と前回調査（平成20年度）より7.7%増加しています。

#### 2. 「建設リサイクル推進計画2008」<sup>注5)</sup>の目標達成状況

アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材（再資源化率、再資源化・縮減率）、建設汚泥（再資源化・縮減率）、建設廃棄物（再資源化・縮減率）、建設発生土（利用土砂の建設発生土利用率）及び建設混合廃棄物（排出量削減）のすべてについて平成24年度目標値を達成しています。

#### 3. 「中国地方建設リサイクル推進計画2009」<sup>注6)</sup>の目標達成状況

アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材（再資源化率、再資源化・縮減率）、建設廃棄物（再資源化・縮減率）、建設発生土（利用土砂の建設発生土利用率）及び建設混合廃棄物（排出量削減）について平成24年度目標値を達成しています。建設汚泥（再資源化・縮減率）については未達成となりました。

	平成17年度 (A)	平成20年度 (B)	平成24年度 (C)	平成24年度(C) －平成20年度(B)	建設リサイクル推進計画2008		中国地方建設リサイクル推進 計画2009	
					平成24年度 目標値	目標値 達成状況	平成24年度 目標値	目標値 達成状況
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率 <sup>注7)</sup>	98.5%	97.7%	99.7%	2.0%	98%以上	達成	98%以上	達成
コンクリート塊の再資源化率	97.8%	97.4%	99.7%	2.3%	98%以上	達成	98%以上	達成
建設発生木材の再資源化率	72.3%	83.2%	92.1%	8.9%	77%	達成	79%	達成
建設発生木材の再資源化・縮減率	92.6%	92.2%	96.8%	4.6%	95%以上	達成	95%以上	達成
建設汚泥の再資源化・縮減率	69.4%	75.3%	82.5%	7.2%	82%	達成	85%	未達成
建設混合廃棄物の排出量	25万トン	13万トン	16万トン	3万トン	－	－	－	－
建設混合廃棄物の排出量削減	－	49%削減	37%削減	－	平成17年度比 30%削減	達成	平成17年度比 30%削減	達成
建設廃棄物の再資源化・縮減率	97.8%	93.5%	96.2%	2.7%	94%	達成	94%	達成
利用土砂の建設発生土利用率	86.3%	84.1%	91.9%	7.7%	87%	達成	91%	達成

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物（コンクリート塊、建設発生木材など）及び建設発生土（建設工事の際に搬出される土砂）の総称。

注2) 再資源化・縮減率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注4) 利用土砂の建設発生土利用率：土砂利用量（搬入土砂利用量＋現場内利用量）のうち土質改良を含む建設発生土利用量の割合。

注5) 「建設リサイクル推進計画2008」（国土交通省 平成20年4月策定）

注6) 「中国地方建設リサイクル推進計画2009」（中国地方建設副産物対策連絡委員会 平成21年10月策定）

注7) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

## 平成 24 年度建設副産物実態調査結果参考資料

### 1. 排出量の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成 20 年度)に比して18.7%増であるが、最終処分量は30.8%減である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成 20 年度)に比して20.6%増である。

#### (1) 建設廃棄物

表1. 建設廃棄物排出状況

(単位: 万トン)

調査年度	排出量			
		再資源化量	縮減量	最終処分量
平成20年度(A)	407	375	6	26
平成24年度(B)	483	454	11	18
増減量(B)－(A)	76	79	5	－8
増減率 ((B)－(A))／(A)	18.7%	21.1%	83.3%	－30.8%

#### (2) 建設発生土

表2. 建設発生土の搬出状況

(単位: 万m<sup>3</sup>)

調査年度	搬出量			
		工事間利用	土質改良プラント	内陸受入地
平成20年度(A)	1,109	292	29	788
平成24年度(B)	1,337	444	49	844
増減量(B)－(A)	228	152	20	56
増減率 ((B)－(A))／(A)	20.6%	52.1%	69.0%	7.1%

## 2. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	中国	全国
アスファルト・ コンクリート塊	100.0 (97.8)	99.8 (99.5)	100.0 (95.9)	99.4 (98.1)	99.9 (97.7)	99.7 (97.7)	99.5 (98.4)
コンクリート塊	100.0 (95.3)	99.8 (99.1)	100.0 (96.2)	99.4 (97.6)	99.8 (97.4)	99.7 (97.4)	99.3 (97.3)
建設発生木材 (縮減除く)	86.1 (82.8)	91.3 (88.7)	96.4 (79.1)	93.6 (86.6)	91.0 (74.6)	92.1 (83.2)	89.2 (80.3)
建設発生木材 (縮減含む)	93.5 (92.7)	97.2 (96.4)	98.7 (91.1)	97.1 (93.7)	96.0 (84.6)	96.8 (92.2)	94.4 (89.4)
建設汚泥 (縮減含む)	96.1 (94.6)	44.6 (36.1)	96.0 (84.0)	82.3 (95.6)	76.8 (24.5)	82.5 (75.3)	85.0 (85.1)
建設混合廃棄 物排出量 (万トン)	1.4 (1.3)	2.5 (1.8)	2.9 (3.5)	4.8 (3.7)	4.3 (2.7)	16.0 (12.9)	279.5 (267.0)
建設廃棄物全体	97.2 (92.6)	95.4 (95.9)	97.6 (91.4)	96.0 (95.4)	95.6 (90.5)	96.2 (93.5)	96.0 (93.7)
利用土砂の 建設発生土利用率	94.1 (81.8)	92.0 (89.2)	90.7 (65.8)	93.1 (87.9)	88.4 (77.1)	91.9 (84.1)	88.3 (78.6)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1: 1段目は、平成24年度の値

2段目の( )は、平成20年度の値

注2: 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

### 【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：  
再資源化率＝(再使用量＋再生利用量)／排出量
- ・建設発生木材(縮減除く)：  
再資源化率＝(再使用量＋再生利用量＋熱回収量)／排出量
- ・建設発生木材(縮減含む)：  
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋熱回収量＋縮減量(焼却による減量化量))／排出量
- ・建設汚泥(縮減含む)：  
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋縮減量(脱水等による減量化量))／排出量
- ・土砂(現場内利用含む)：  
利用土砂の建設発生土利用率＝(土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量)／土砂利用量  
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量＋現場内利用量である。  
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めず。